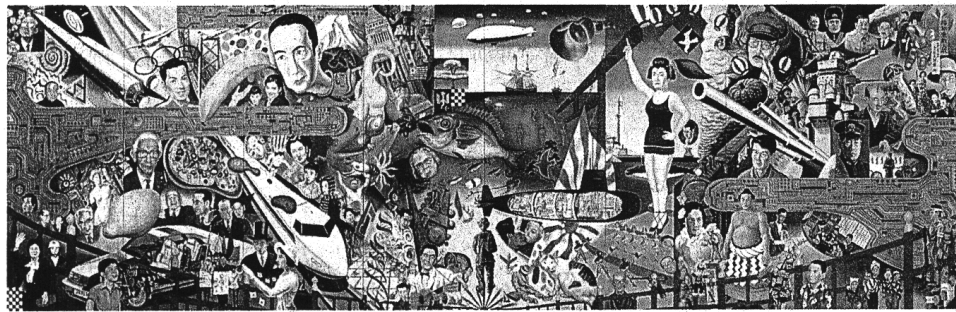


芸術

絵巻物(高級)と広告看板(低俗)はホント？
＜美術は格が高く、大衆は低俗という思い込みを批判＞
美術と大衆とをつなごうとする試み
芸術(美術)とは何かを問う!!

展覧会 大・タイガー立石展 変幻世界トラ紀行 (高松市美術館・11月3日まで)



「昭和素敵大敵」1990年 福岡・田川市美術館蔵

虎は千里を歩き千里を帰るという。そんな旺盛な活力を誇るトラの名を冠した作家の生誕80年を記念する大・回顧展が全国を巡回中だ。立石紘一、改めタイガー立石、改め立石大河は1941年、日米開戦から間もない年の瀬に生まれ、98年に56歳の若さでこの世を去った。

本邦のポップアートと称されることもあるように、立石の作品には富士山や旭日、漫画のキャラクターや名画から取られたモチーフなど雑多で大衆的なイメージがちりばめられる。美術としての「絵画」に漫画のコマ割り構造を取り入れる独自のスタイルも確立した。漫画や絵本も本領としながら、陶の彫刻まで手がけている。自身の広告として発想された「立石紘一のよな」やネオン広告を作品化する試み、さらには中村宏とともに決行した絵画を街中で掲げる「路上歩行展」など、美術と大衆とをつなごうとする姿勢は頭角を現した60年代から一貫する。約200点の

高級で低俗 背反を結ぶアート

作品がならぶ展覧会から浮かび上がるのは展示室の外へ、美術の外へと意識を向け続けた作家の姿だ。

立石は69年から13年間イタリアのミラノに暮らしたが、帰国から数年を置いて昭和が終わる。これを機会に取り組んだ明治、大正、昭和の3代を描いた連作は、時代を象徴する人物や文物がひしめく壁画のごとき貴族を備えた傑作

会場の最後には大河の一滴のように姿を変えながら世界を流転する水を描いた「水の巻」が置かれている。そこで生じる疑問。立石にとって日本は内だったのか、外だったのか。その答えは大河のみぞ知る。

(小林公・兵庫県立美術館学芸員)
 ★高松市美術館 高松市紺屋町10の4

明日から 令和4年度 「大阪府公立高等学校入学者選抜実施要項」

◆実施要項の中で、特に君達が公立受検をするときに参考になるだろうと思われる項目をピックアップして記載していきます。

＜毎年この冊子が届くといよいよだなあと感じる！＞

◆もう知っていると思いますが、新しい選抜制度になってまる6年目が過ぎ、君たちで7年目。この制度になってから全学年の5段階評定が調査書に記載される。

◆また特別入学者選抜は、実技や面接を課す高校のみとなり、工業科や商業科、農芸、園芸などの実業系専門学科は、一般入学者選抜の枠に組み込まれた。よって普通科と同じ検査日になってしまった。

＜実業系は、特別枠にしりたい僕は！＞

◆このことにより、工業科や特に商業科の高校は定員割れが続いている。

◆逆に評定のバブル化に伴うチャレンジ受検『不調に終わっても併願校の私学に進学する(準専願)覚悟で公立を受検する意』で文理学科や普通科上位校の高倍率が、毎年度続いている。

◆昨日の実力テストは、どうだった？11月の「進路保護者懇談会」の案内と共に「進路希望調査」も昨日配布した。しっかりと自分の「将来」を見据えたと共に、自分の「受検学力」も客観的に捉え、記入して欲しい。

◆修学旅行は終わった、この後、ミニ体育大会、芸術鑑賞、縮小文化活動発表会、懇談会、期末テスト、私学受験校決定懇談会・・・とあっという間の2学期も終わる。

◆一日一日を大切に！
 継続は力なり！

夢と勇氣と優しさと